

玉名市文化財調査報告第32集

しょうやまなかの おいせき
庄山中ノ尾遺跡

—玉名市岱明町庄山における店舗新築工事に伴う文化財調査報告書—

平成29（2016）年

玉名市教育委員会

序 文

玉名市は、熊本県北部の菊池川下流域に位置しており、縄文時代から長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。九州新幹線が開通して5年目を迎え、政治経済・教育文化、観光の中心としてさらなる発展を遂げようとしています。

このような中で玉名市教育委員会では、様々な開発事業と発掘調査の円滑な調整のため、埋蔵文化財行政の改善、体制の充実に努力しているところです。また、その成果の公開・活用を通じて広く教育、文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、店舗新築工事に伴う庄山中ノ尾遺跡の調査成果をまとめたものです。本書が、市民の方々の文化財に対する理解の一助となり、また学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査並びに報告書作成にあたっては、各方面で多くの方々に多大なご理解とご協力を賜ったことに対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成29年2月28日

玉名市教育委員会
教育長 池田誠一

例 言

1. 本書は、玉名市岱明町庄山における店舗新築工事に伴う文化財調査報告書である。
2. 調査は玉名市教育委員会が実施し、工事主体者から玉名市教育委員会に発掘調査を委託契約して行った。
3. 現地調査を平成27年度（平成28年2月1日～平成28年2月22日）に行い、報告書作成は、平成28年度に実施した。
4. 現地調査は齋父雅史が担当し、実測・写真撮影も齋父が行った。
5. 挿図に使用している座標の数値は、世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
6. 発掘調査後の整理作業は玉名市文化財整理室で行い、遺物も市文化財整理室で保管している。
7. 本書の執筆・製図・編集は齋父が行い、遺物の実測は大倉千寿の協力を得た。

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査に至る経緯

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外とされていたが、平成20年11月の店舗建設計画における事業照会を受けて実施した試掘調査の結果、一部において古墳時代前期と考えられる遺構と遺物が確認された。その結果を受けて、平成21年1月6日付「玉市教文第434号」により熊本県教育庁文化課と遺跡地図(マイラー原図)の変更について協議を行ない、熊本県教育委員会から平成21年1月9日付「教文第2408号」にて遺跡地図の変更が通知された。遺跡名称は字名から「庄山中ノ尾遺跡」となった。

しかし、事業計画自体が進展することはなく、その後も別の店舗建設計画が数件持ち上がっていたが、いずれも事業化されることなく数年が経過していた。

平成27年度になって、主体者から平成27年10月27日付で文化財保護法第93条による届出がなされた。当初は、建物部分の全面調査が必要とされる計画内容であったが、協議により基礎部の設計変更がなされた。それを受けて、熊本県教育庁文化課と玉名市教育委員会文化課とで調査範囲や方法等の協議を行った結果、工事により埋蔵文化財へ影響が及ぶ部分のみを発掘調査の対象とすることとなり、設計変更後の計画に基づく確認調査を行った。調査終了後、届出を進達し、平成28年1月26日付教文第2065号で熊本県教育長から工事前に発掘調査を実施するよう通知を受けた。玉名市教育委員会から平成28年1月27日付玉市教文第355号にて文化財保護法第99条による発掘調査の通知をし、平成28年1月29日付で玉名市と主体者で契約書及び協定書を交わし、調査に着手した。

第 2 節 調査の組織

平成 2 7 年度 発掘調査

調査主体：玉名市教育委員会

調査責任：教育長 池田誠一

調査総括：教育部長 伊子裕幸

文化課長 中山富雄

調査事務：課長補佐兼文化財係長 竹田宏司

参事 西嶋涼子

調査担当：技術主任 齋父雅史

発掘作業員：古城明憲 松村利男

中島明子 吉田ムツ子

平成 2 8 年度 報告書作成

調査主体：玉名市教育委員会

調査責任：教育長 池田誠一

調査総括：教育部長 伊子裕幸

文化課長 竹田宏司

調査事務：文化財係長 田中康雄

参事 西嶋涼子

報告書担当：技術主任 齋父雅史

第 3 節 試掘・確認調査の概要

【試掘調査】（平成20年12月3日～10日実施）

調査前の状況は、敷地北側の国道沿いが資材置場、西側の一段低い部分は耕作地、南側がミカン畑であった。当初の事業計画面積14,348㎡に対して、合計37本のトレンチを設定して試掘調査した結果、全体的に旧畑地面から山砂による盛土が行われ、国道と同じ高さまで整地されている状況が確認された。全体的に遺構の密度は低かったが、北側のトレンチから竪穴建物跡1基を検出した。基本土

層は、Ⅰ層が山砂盛土、Ⅱ層が暗褐色土（旧耕作土）、Ⅲ層がにぶい黄褐色粘性土、Ⅳ層が無遺物層（岱明層）であり、Ⅲ層上面から主に遺構が検出されている。この試掘調査結果の詳細は、『玉名市内遺跡調査報告書Ⅵ―平成20年度の調査』玉名市文化財調査報告第21集（2009）に報告済である。

【確認調査】（平成28年1月13日～19日実施）

確認調査では、建物基礎部及び、防火水槽・看板設置部に計29か所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した（第3図参照）。このうち、遺構が確認された5ヶ所が今回の本調査対象となった。試掘調査時に検出していた竪穴建物跡は、遺構の南・北端及び東端までを検出し、発掘調査範囲を確定した。基本土層は、試掘調査時と同様であった。

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

玉名市は、熊本県北部の菊池川下流域を中心とした面積約152km²、人口約68,000人の地方都市である。菊池川は、熊本県北部の阿蘇外輪山を源とし、菊池市、山鹿市、和水町を經由して玉名市の中心部を流れ有明海に注ぐ。本流の流路延長61.2km、流域面積996km²の一級河川である。市の北西側に位置する小岱山麓は、風化の進んだ花崗岩山塊で、南側にかけて緩やかな丘陵地帯が広がっており、花崗岩風化土のため斜面の崩落が認められる。庄山中ノ尾遺跡は、行末川の支流である友田川と今泉川に挟まれた低丘陵上（標高約18m）に位置している。現在、この丘陵を横断するように国道208号線が通っており、周辺には大型店舗などの商業施設が建設されている。

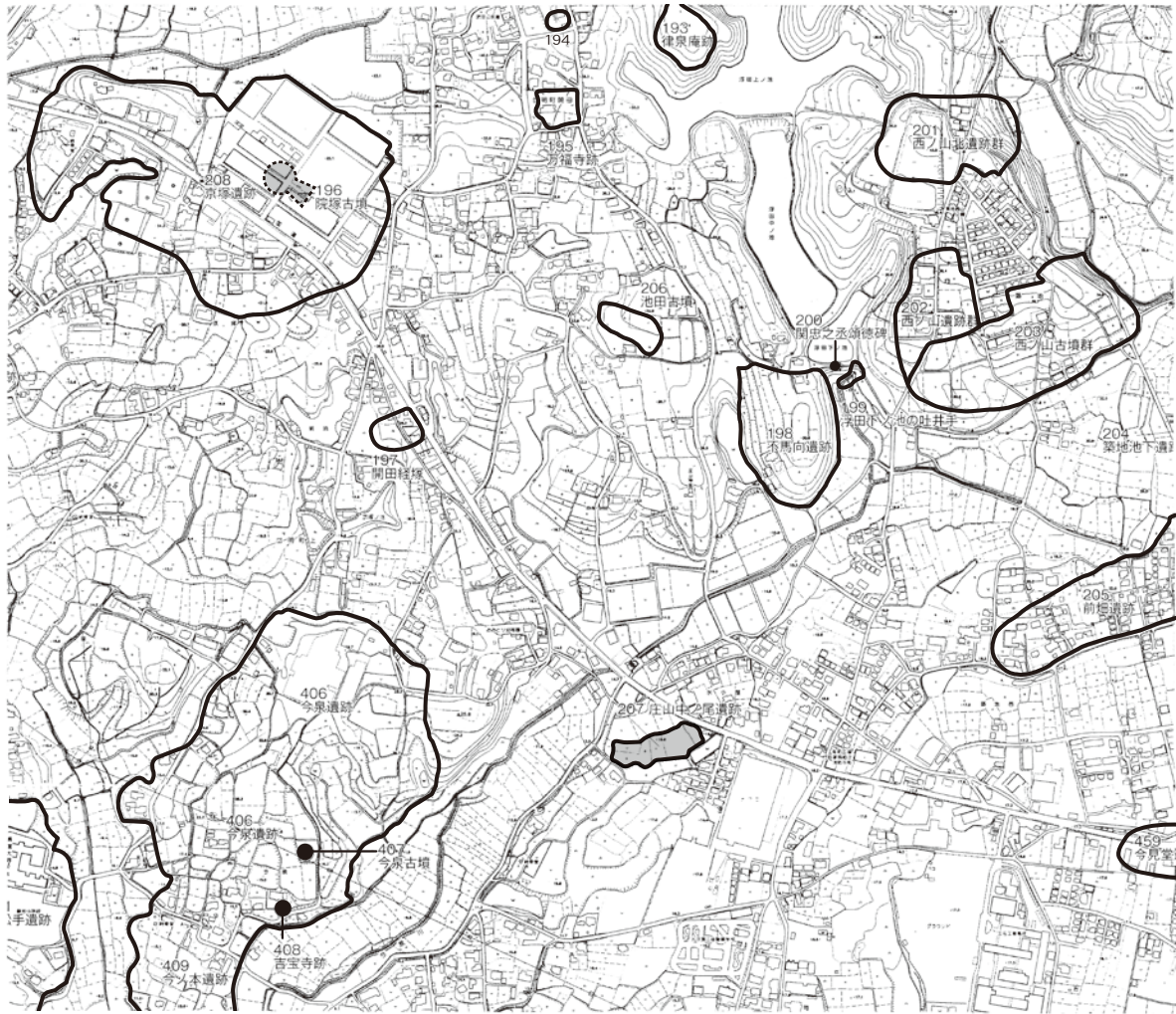
第2節 歴史的環境

縄文時代の遺跡としては、当時の海岸線及び河川沿いに貝塚が分布しており、最も近い所では古閑原貝塚などがある。弥生時代になると低丘陵上に集落が営まれるようになる。京塚遺跡や今泉遺跡は、本格的な発掘調査は行われていないため詳細が不明であるが、今泉遺跡からは弥生土器、石包丁などが採集されており、箱式石棺も確認されている。前畑遺跡からは、弥生時代から中世までの遺構・遺物が出土している。

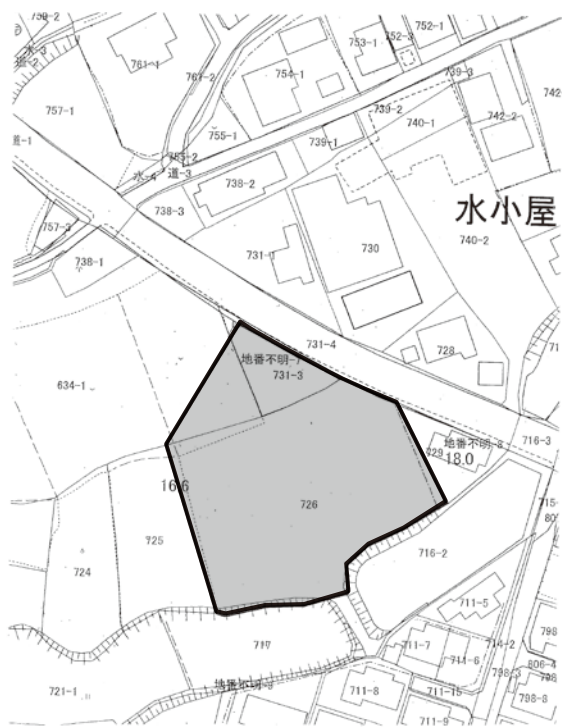
古墳時代になると菊池川流域には多くの古墳が造られるようになる。下流域の右岸としては、まず4世紀中頃に院塚古墳、籐光寺古墳などの前方後円墳が築造される。その他、今泉古墳、池田古墳、西ノ山古墳群などの小古墳が分布しているが、現在は消滅したものが多い。西ノ山古墳群は、昭和30年代に山林開墾中に発見され、3基のうち1基は横穴式石室（花崗岩石材）で、他2基は箱式石棺とされている。

古代における玉名郡の郡司は日置氏であり、立願寺一帯を本拠地にしていたとみられている。遺跡周辺では、不馬向遺跡が古代の包蔵地とされ、西の山遺跡から火葬骨蔵器が4点出土している。

平安時代後期から鎌倉時代にかけては、玉名郡内に荘園が成立していった。菊池川右岸の玉名市高瀬から岱明町にかけては大野別符（250町）にあたる。鎌倉時代には関東御家人の小代氏が地頭職を得てその後戦国時代に至るまで一貫して地頭職を継いだ。周辺では、禅宗の万福寺、天台宗の津泉庵



第1図 周辺遺跡分布図 (S=1:12,000)

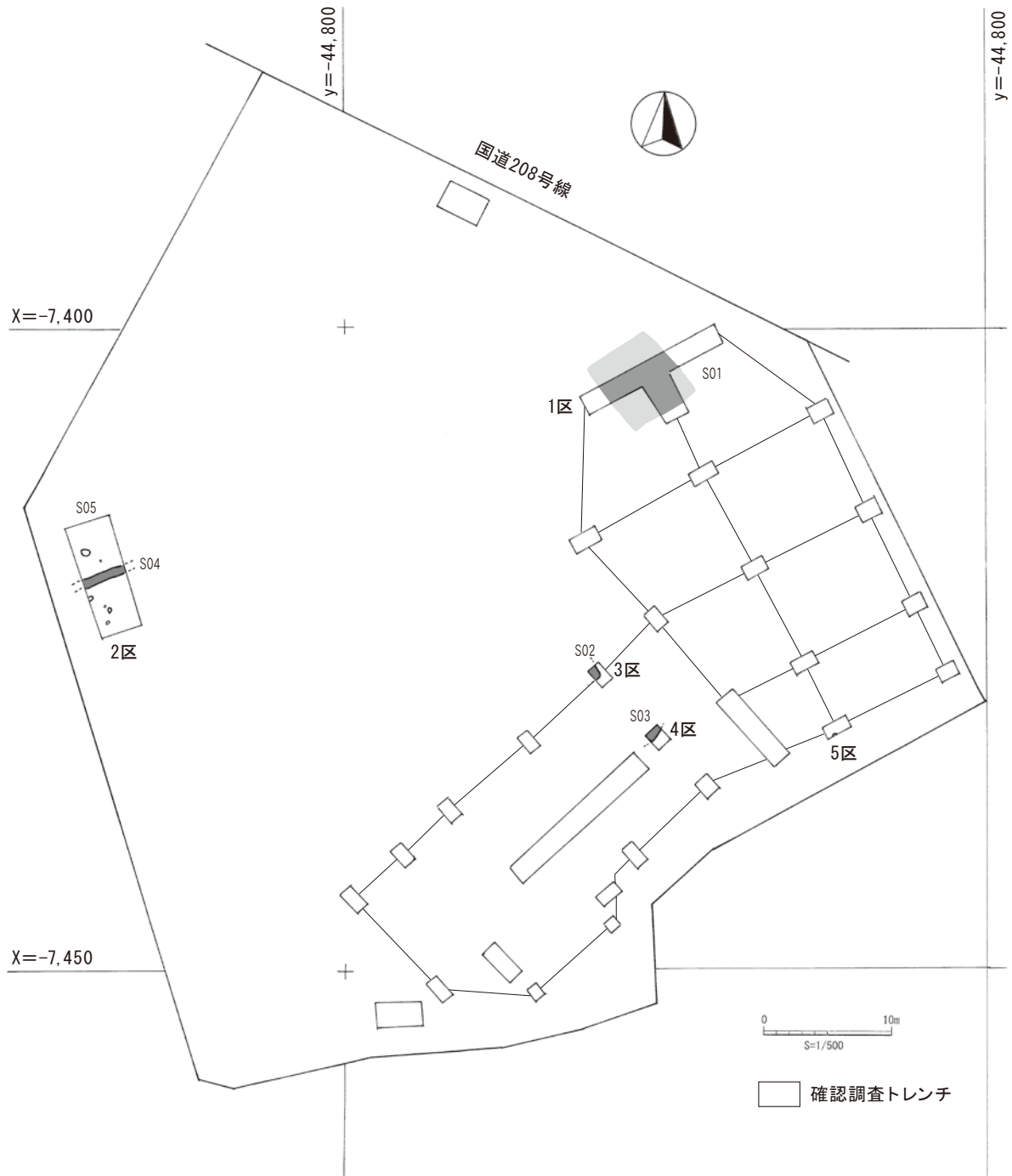


第2図 庄山中ノ尾遺跡調査位置図 (S=1:2,000)

第1表 周辺遺跡名称一覧

遺跡名	時代	備考
193 津泉庵跡	中世	跡地に薬師堂
194 津泉庵薬師堂	中世	吉宝寺跡、五輪塔
195 万福寺跡	中世	
196 院塚古墳	古墳	昭和39年消滅
197 開田経塚	中世	封土上に石碑あり
198 不馬向遺跡	古代	青磁、土師器出土
199 浮田下ノ池の吐井手	近世～近代	市登録
200 関忠之丞頌徳碑	近代	浮田溜池関連
201 西ノ山北遺跡群	旧石器・古代～中世	土師器出土
202 西ノ山遺跡群	旧石器・古代	骨蔵器4点出土
203 西ノ山古墳群	古墳	3基、現在消滅
205 前畑遺跡	弥生・古代	旧狐ん路遺跡
206 池田古墳	古墳	古墳参考地
207 庄山中ノ尾遺跡	弥生～中世	本調査地
208 京塚遺跡	弥生・古墳	
406 今泉遺跡	弥生	箱式石棺あり
407 今泉古墳	古墳	円墳、現在消滅
408 吉宝寺跡	中世	薬師堂あり
409 今ノ本遺跡	弥生	
411 西松手遺跡	縄文	石鏃・石斧等採集
459 今見堂遺跡	中世	五輪塔、古銭など

2011「玉名市遺跡地図」より抜粋



第3図 調査区・遺構配置図 (S=1:500)

などの寺院が建立されているが、廃寺となり跡地には五輪塔などが残存している。

戦国時代を経て肥後には佐々成正が入国し、肥後国衆一揆の後肥後北部に加藤清正が入国した。加藤清正は、肥後各地で治水や土地改良を進めたとされ、玉名地域では菊池川の改修や石塘の築堤などが知られている。加藤氏の後は肥後に細川氏が入国し、幕藩体制のもと熊本藩内の支配体制を確立させた。肥後においては、第六代藩主細川重賢による「宝暦の改革」以降、土木工事は藩から各地の手永へと主導権が移行し、地方分権化が進んだとされている。岱明町には灌漑用の溜池が多く造られているが、浮田溜池もその一つであり、坂下手永の惣庄屋であった関忠之允の主導によって築造された。明治39年に地元村人は頌徳碑を建立し、現在も水利組合によって管理されている。

Ⅲ章 調査の内容

S01（1号竪穴建物）

1区で確認し、以前の試掘調査時点から検出されていた遺構である。試掘時は、2か所のトレンチで検出、同一遺構と判断され「S-1」と番号を付して調査している。この時に、上層である「3層」から多くの遺物が出土しており、いずれも古墳時代前期の土師器（甕・高坏・鉢・ミニチュア土器等）10数点と石杵が1点出土している。石杵については、別途後述する。

今回の本調査は最小限の範囲であり、遺構の全体は確認できていないが、南北幅が約5.0mを測る竪穴建物跡と考えられる。深さは、残存部で約0.6mである。ピットの位置関係から4本柱と考えられ、炉や竈は調査範囲からは確認されなかった。床面には硬化面がみられ、北側と東側には壁に沿って幅の狭い周溝がある。遺物の出土状況は、上層（3層）では南北側に集中部がみられ小片が多い中に甕が数点含まれる。遺構の埋没過程での流れ込みか廃棄されたような状況であり、この層に石杵も含まれている。下層は、貼床上の出土とみられ、ほぼ完形に復元できる高坏が2点出土しており、当遺構の時期を示す資料といえる。上層から甕などと共に土錘片が出土している（第5図参照）。なお、礎と考えられる須恵器が1点最上層から出土しているが、完全に遺構が埋没する時期の最終過程で混入したものと考えられる。

床面出土に近い高坏の型式は玉名地域では柳町遺跡などにみられ脚部がラップ状に開き、坏部が外反する有稜高坏である。時期は、他の広口壺などと共に古墳時代前期と考えられる。

S02（1号土坑）

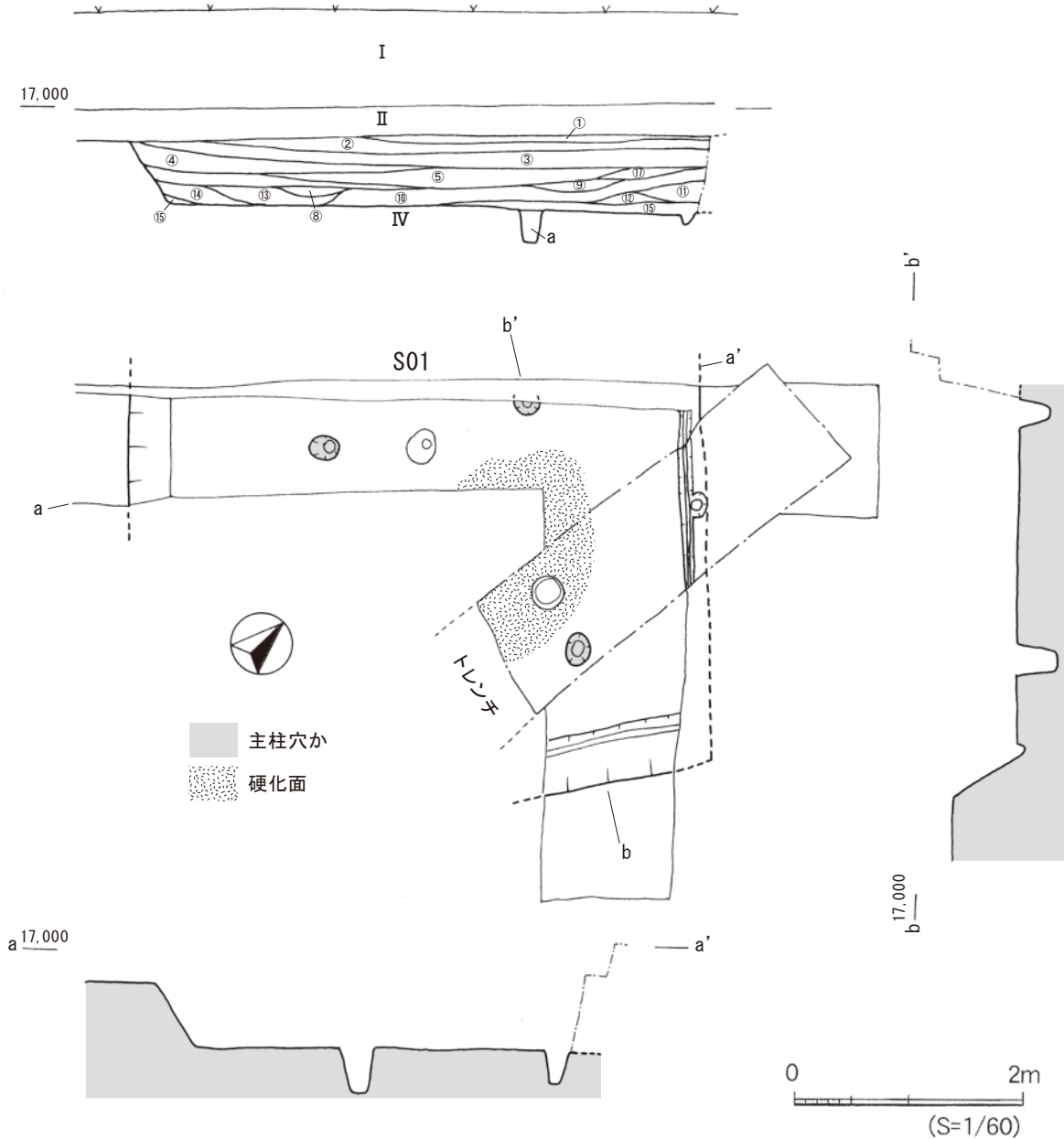
3区の南西側において検出。全体の形状は不明。調査区内で幅0.75m、長さ2.0m、深さ0.3mを測る。覆土は、暗褐色粘性土であり、遺物は古墳時代と考えられる土師器片が少量出土したのみで、明確な時期は不明であるが、それ以降の遺物混入はみられなかった。住居跡の可能性も否定できない。

S03（2号土坑）

4区の西側において検出。全体の形状は不明。調査区内で幅約1.0m、長さ0.9m、深さ0.2mを測る。覆土は、暗褐色粘性土であり、遺物は土師器片が微量に出土したのみで、明確な時期は不明である。北側にやや低めの段が付き、ピットが1基検出された。土坑としているが、住居跡の可能性も否定できない。

中世以降の遺構 S04（溝状遺構）

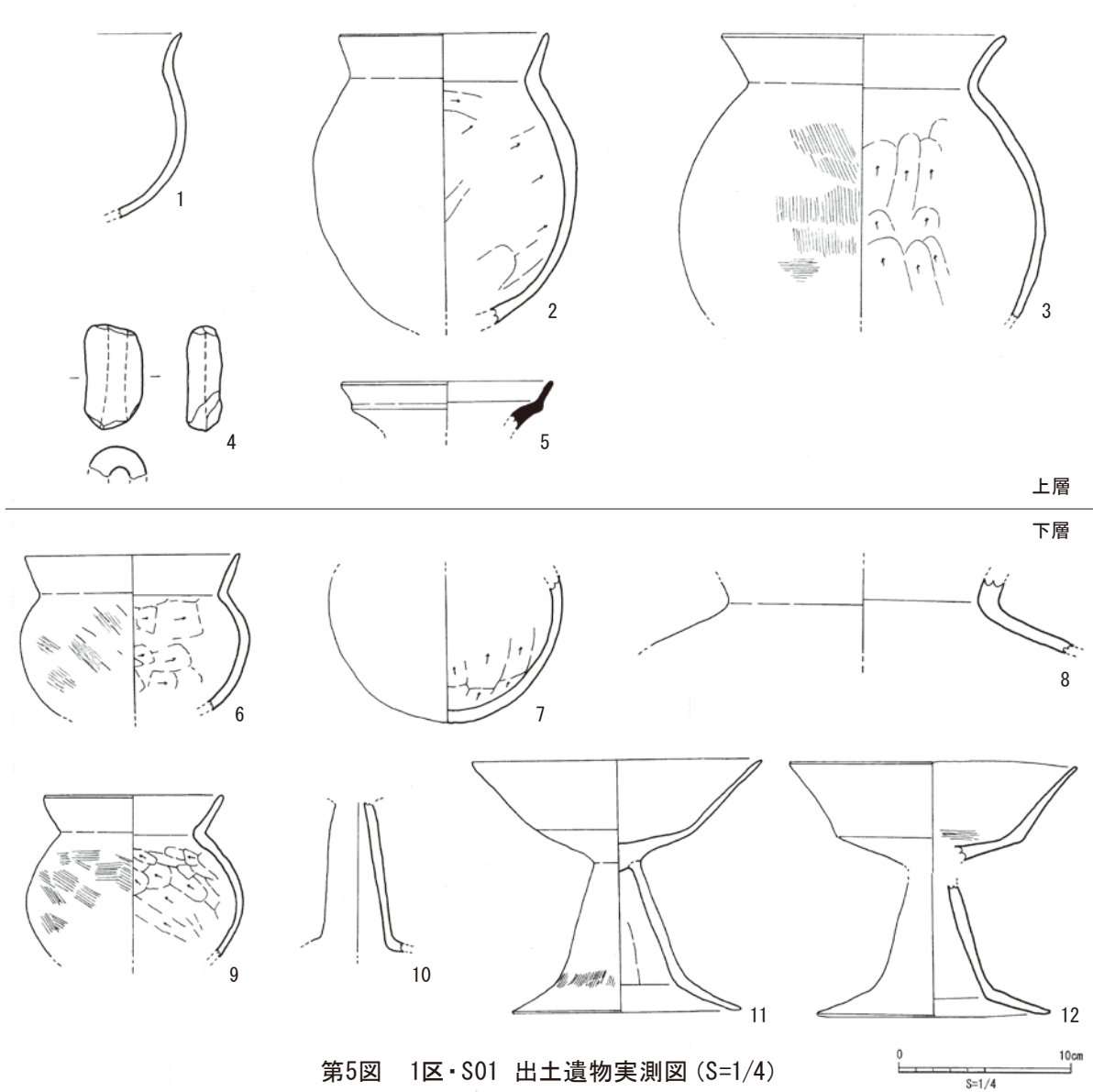
2区のほぼ中央部で検出。東西方向に延びる溝状遺構で、幅約0.45～0.6m、深さは0.06mを測る。北側は浅く、南側へ傾斜するほど深くなる。覆土は、暗褐色粘性土であり、遺物は中世の瓦器片が1点出土したのみで、明確な時期は不明である。その他の遺物混入はなく、埋土の状況からも中世以降と考えられる。一部ピットが切り合っているが、時期は不明であり、数か所の小穴は根穴の可能性もある。この溝の性格については明確でないが、幅も狭いことから田畑等に伴う溝であったと考えられる。



土層注記

- I 山砂盛土
- II 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。砂質土に近い旧耕作土。
- IV にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、粘性を有す。砂粒を多く含む無遺物層。
- S01
- ① 黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりが強く、ほとんど粘性を有しない。粗い砂粒を含む。
- ② 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりが強く、粘性を有しない。粗い砂粒、土器片を含む。
- ③ 黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりが強く、粘性を有しない。粗い砂粒、土器片を部分的に多く含む。
- ④ 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。炭化物、焼土粒を含む。
- ⑤ 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりが強く、粘性を有しない。粗い砂粒、土器片を少量含む。
- ⑥ 暗褐色土 (7.5YR3/2) しまりがあり、わずかに粘性を有す。砂粒の混入少ない。
- ⑦ 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりが強く、粘性を有しない。粗い砂粒を微量に含む。
- ⑧ 黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりがあり、やや粘性を有す。焼土、炭化物を少量含む。
- ⑨ 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。粗い砂粒を少量含む。
- ⑩ 褐色土 (7.5YR4/3) しまりがあり、やや粘性を有す。黒褐色土、IV層土を少量含む。
- ⑪ 褐色土 (7.5YR4/4) しまりが強く、やや粘性を有す。IV層土をブロック状に含む。
- ⑫ 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。
- ⑬ 暗褐色土 (7.5YR3/2) しまりがあり、やや粘性を有す。炭化物を少量含む。
- ⑭ にぶい黄色土 (2.5YR6/4) ややしまりがあり、粘性を有す。混入物ほとんどなし。
- ⑮ 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、やや粘性を有す。砂粒の混入は少ない。
- a 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまり弱く、粘性を有す。IV層土をブロック状に含む。

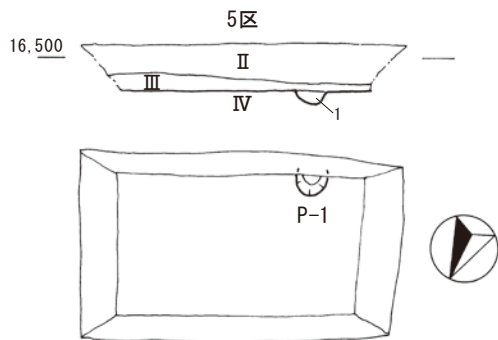
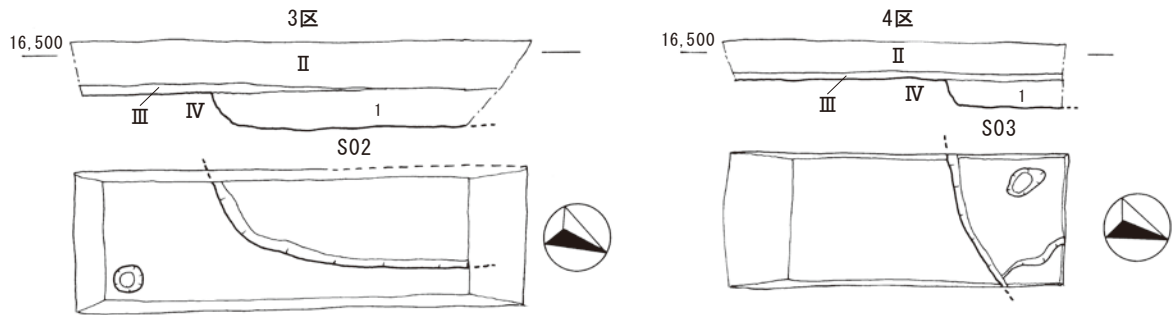
第4図 1区・S01 実測図 (S=1/60)



第5図 1区・S01 出土遺物実測図 (S=1/4)

第2表 S01出土遺物観察表

番号	層位	種別	器種・部位	法量(cm)			器面調整		色調				焼成
				口径	底径	器高	外面	内面	外面		内面		
1	③層	土師器	鉢	—	—	10.7	不明	不明	にぶい橙色	7.5YR7/4	橙色	7.5YR7/6	良
2	③層	土師器	甕	12.2	—	16.9	ナデか	ヘラケズリ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	良
3	③層	土師器	甕	16.4	—	16.2	ヨコナデ ハケメあり	ヘラケズリ	橙色	5YR6/6	橙色	5YR6/6	良
4	③層	土製品	土錘	長6	幅3.4	厚0.9	磨滅して不明	不明	橙色	.5YR7/6	橙色	7.5YR6/6	良
5	①層	須恵器	甃	12.2	—	2.8	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	7.5YR5/1	褐灰色	10YR6/1	良
6	下層	土師器	小型壺	12.5	—	9.15	ヨコナデ ハケメあり	ヨコナデ ヘラケズリ	にぶい橙色	7.5YR6/4	橙色	5YR6/6	良
7	下層	土師器	皿	10.4	—	9.4	ヨコナデ ハケメ後ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	橙色	.5YR7/6	にぶい橙色	5YR6/4	良
8	下層	土師器	小型壺?	—	—	4.6	磨滅して不明	不明	橙色	5YR6/8	橙色	5YR6/8	良
9	下層	土師器	壺	10.4	—	9.4	ヨコナデ ハケメ後ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	橙色	.5YR7/6	にぶい橙色	5YR6/4	良
10	下層	土師器	高坏	—	—	8.7	ナデか	ナデか	橙色	7.5YR6/6	橙色	5YR6/6	良
11	下層	土師器	高坏	16.8	13.2	14.6	磨滅して不明	ハケメ ヘラケズリ	橙色	7.5YR7/6	橙色	7.5YR7/6	良
12	下層	土師器	高坏	16.6	13.6	13.8	磨滅して不明	ナデか	橙色	5YR6/6	橙色	5YR6/6	良



土層注意

※II・IV層はS01の土層と対応

III 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。砂粒はあまり含まない。

S02 (3区)

1 黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりが強く、粘性を有す。粗い砂粒を微量に含む。

S03 (4区)

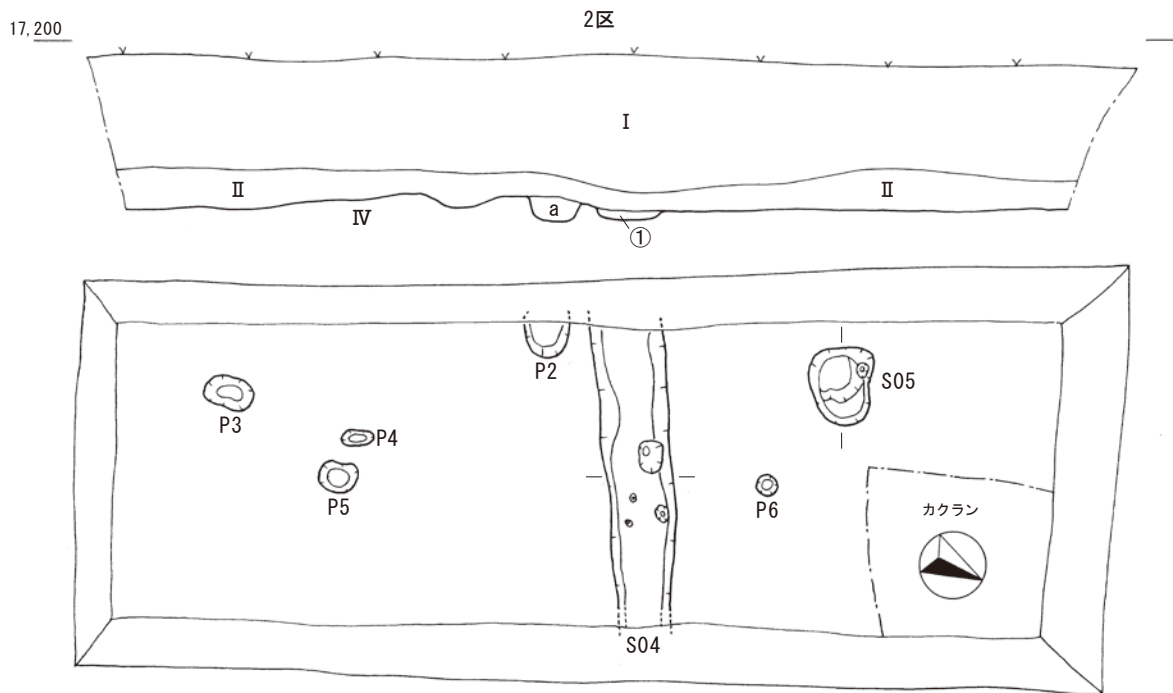
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。炭化物を少量含む。

P1 (5区)

1 暗褐色土 (7.5YR3/2) しまりが弱く、わずかに粘性を有す。砂粒が少量混する。

P2 (2区)

a 暗褐色土 (10YR3/2) しまりが弱く、わずかに粘性を有す。IV層土を粒状に少量含む。



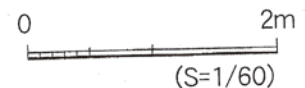
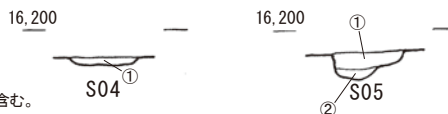
S04 (2区) 土層注記

1 暗褐色土 (10YR3/3) しまり弱く、粘性を有す。砂粒を微量に含む。

S05 (2区) 土層注記

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、わずかに粘性を有す。炭化物を少量含む。

2 褐色土 (10YR4/4) しまりが弱く、粘性を有す。1層土を少量混入する。



第6図 2・3・4・5区土層及び遺構実測図 (S=1/60)

その他の遺構

2区において、大小のピット6基を検出した。西側の不正形な楕円を呈したS05は、小規模な土坑と考えられる。短径0.45m、長径0.6m、深さ0.2mを測る。遺物は出土していない。その他のピットも遺物は確認されず、明確な時期も不明である。並びも不統一であるため建物跡とは考え難い。

5区において、ピット1基を検出した。確認調査時は、土坑と判断していたが、再検出した結果、ピットのみであった。直径0.25m、深さ0.1mを測る。遺物も検出されず時期は不明である。

第Ⅲ章 総括

今回の調査では、古墳時代の遺構としては住居跡と考えられる堅穴建物を1基検出した。その他、3基の土坑についても古墳時代の遺構である可能性が高い。土坑としているが、全面調査しているわけではないので、堅穴建物跡である可能性も十分考えられる。

当遺跡周辺で確認されている古墳時代の集落跡は弥生時代に比べると少ない。近辺では、岱明町野口の塚原遺跡から4世紀代の住居跡が10数基確認されているほか、ほぼ同時期と考えられる菊ノ尾遺跡からも住居跡が出土している。築地の南大門遺跡（旧称：蓮華遺跡）からは6世紀代の住居跡が16基確認されている。このように、遺跡の南東側を中心とした約1.5kmの範囲内に古墳時代の遺跡が点在しており、生活域として数基の住居跡からなる集落が分布していたものと考えられる。

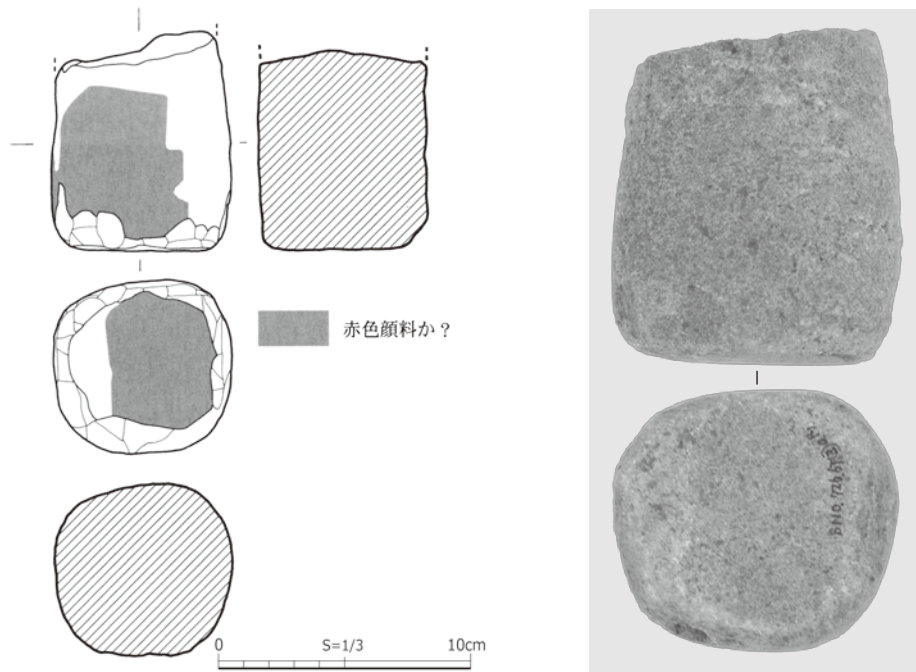
当該地の東側に位置する大型店舗建設に伴う試掘調査では埋蔵文化財は確認されておらず、東西側は谷となるため、遺跡は国道を挟んだ北東側に広がりがあったものと考えられるが、現状は宅地化が進んでいる。

当遺跡と同時期の古墳としては、北西約1km先に所在していた院塚古墳がある。昭和39年の工場建設に伴い調査後に消滅しているが、4世紀中頃の築造とされる全長約78mの前方後円墳であり、菊池川下流域の首長墓と考えられている。この古墳と当遺跡の間には幅の狭い谷底平野があり、現在今泉川（行末川水系）が流れている。古墳が小袋山からの緩やかな傾斜地（標高約30m）に築造されているのに対して、遺跡は安定した台地端に位置している。この他、東側丘陵上に位置する今泉遺跡からは、平成5年頃に箱式石棺が数基確認されており、以前から「百塚」という地元の呼称があったとされている。この他、西の山古墳群、池田古墳など遺跡の北東側は小古墳を含めた墓域群が形成されていたようである。

当遺跡からは、前述したようにS01（堅穴建物）から古墳時代の石杵が出土している。試掘時にトレンチの遺構内から出土した遺物であるが、同遺構を今回調査して、出土した層と共伴遺物も再確認できた。ここでこの石杵について補足をしたい。

「石杵^{いしぎね}」とは、赤色顔料の精製において使用される石製品で、本来は石臼とセットになる。特に石杵は圧砕具であり、顔料を砕き揺りつぶして粉状にする特殊な道具である。

県内の石杵は、弥生時代の場合、自然石を利用したL字状をしているのに対して、古墳時代になる



第7図 庄山中ノ尾遺跡S01出土の石杵

と円柱状に変化するとされている。古墳時代の石杵に限定すると、山鹿市の方保田東原遺跡と菊池市周辺で採集された資料の2点のみである。弥生時代以降これらの遺物から菊池川流域には、施朱の風習、儀礼が波及していたものと考えられている。古墳時代では、竪穴式石室や粘土郭に施朱がみられるようになり、葬送儀礼の中でも重要な意味を持つものとされている。

古代の赤色顔料は、朱・ベンガラ・鉛丹の3種類があり、保田東原遺跡資料の赤色顔料は水銀朱ということがわかっている、また院塚古墳出土の鉄剣付着顔料は水銀朱と分析されている。

当遺跡出土の石杵は、分析は行っていないため顔料の種類は不明であるが、側面と下端面に赤みを帯びた顔料が付着しており、下端面はほぼ平坦に摩耗している。かなり使用されてから割れたか、もしくは割られ、竪穴建物（S01）の廃絶後に、他の甕、土錘などとともに埋没している状況であった。

今回の調査では、この石杵がどのように使用されたかは明確にできなかったが、古墳周辺における小集落から、顔料の精製工程を行っていたと考えられる遺物が出土している一例である。

<参考文献>

- 乙益重隆他 1965 「院塚古墳」 『熊本県文化財調査報告 第6集（玉名地方）』 熊本県教育委員会
 本田光子 1987 「墳墓出土の赤色顔料小考」 『肥後考古 第6号』 肥後考古学会
 本田光子 2001 「第1号主体部の赤色顔料について」 天水町文化財調査報告第 集 『大塚古墳』
 阿南 亨 2003 「熊本の石杵」 『熊本古墳研究 創刊号』 熊本古墳研究会
 中村安宏編 2009 「庄山中ノ尾遺跡」 『玉名市内遺跡調査報告書VI』 玉名市教育委員会



調査状況(東から)



S01 下層遺物出土状況(北から)



S01 完掘状況(北から)



2区 S04・S05 完掘状況(北から)



3区 S02 完掘状況(西から)



4区 S03 完掘状況(北から)



5区調査状況(南西から)



S01 上層出土遺物



S01 下層出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しょうやまなかのおいせき							
書名	庄山中ノ尾遺跡							
副書名	玉名市岱明町庄山における店舗新築工事に伴う文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	齋父 雅史							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	熊本県玉名市岩崎163							
発行年月日	平成29年(2016)2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
庄山中ノ尾遺跡	玉名市 岱明町庄山	43206	207	32° 55' 55"	130° 31' 14"	2015.2.1 ～ 2015.2.22	約60㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
庄山中ノ尾遺跡		古墳・中世	住居跡・ 土坑・溝	土師器・土錘・ 石杵、須恵器		試掘時に同遺構から古墳時 代の石杵出土		

玉名市文化財調査報告第32集

庄山中ノ尾遺跡

—玉名市岱明町庄山における店舗新築工事に伴う文化財調査報告書—

平成 29 (2016) 年2月24日印刷

平成 29 (2016) 年2月28日発行

発行 玉名市教育委員会
〒865-8501 熊本県玉名市岩崎163
TEL 0968-75-1136

印刷 (有)玉名民報印刷
〒865-0015 熊本県玉名市亀甲261
TEL 0968-72-2535

